

鋼材運搬用の木材自社製品

山城

関東で拡販、新拠点開設

群馬県太田市に物流センター

意匠性金属板保護フィルムの販売、加工を手掛ける城山（本社・名古屋市長東区、社長・加藤隆介氏）は、関東地区で鋼材運搬用スキッド、木箱の素材となる自社製品の木材「Sdウッド」の拡販を図る。群馬県太田市に新たな物流拠点を開設し、11月から稼働を

スタートした。供給能力を高めることで幅広い需要を捕捉、販売数量アップを狙う。Sdウッドは2018年、木材の調達先を独自開拓した上で商品化した。高品質・高強度、作業性や環境性能の高さから、販売開始以来着実に採用実績を重ねている。

22年、高崎市に北関東出張所を新設して以来、関東のユーザーによる問い合わせが増加傾向にある。しかし、これまで木材を名古屋から各地へ配送していたことから納期の長期化が課題だった。

そこで、同地区の販売先に対する納入体制を構築し販売数量を増

やすため、今年春に在庫・配送拠点の設置を決断。太田市に本拠を置く物流会社と提携し、倉庫の一角を借りるかたちで稼働開始に漕ぎ付けた。

開設した「北関東物流センター」は、Sdウッドのみを置く初め

ての出先となる。北関東出張所から車で20分ほどの距離にあり、約350平方メートル、約350平方メートルのスペースに常時100立方メートルほどの製品をストックする。稼働開始に合わせて切断機、溝掘り機を新設し、現地組み立てもスタート。今後も機能拡充を計画している。



新設した北関東物流センター

需要家に近い場所での在庫、組み立てを行うことで短納期ニーズに対応するとともに、Sdウッドの品質向上にも努めながら、関東地区での月間販売目標100立方メートルの早期達成を目指す構えだ。